

令和 7 年度

第5次総合振興計画事務事業評価シート(様式1)

提出日	R7.6.20	
課名	環境農林課	
グループ名	環境保全グループ	
記入者名		

1 事業概要						
(1)事業名	ごみ減量化対策事業費	(2)事業種別 (新規・継続)	継続	(3)事業性格 (政策・一般)	一般事業	
(4)第5次総合振興計画での位置づけ		(5)予算・財源等の別				
①基本目標	快適な環境のまち(生活環境の整備)			①会計区分	一般会計	
②大項目	ごみ対策			②財源区分	町単独	
③中項目	ごみ減量・リサイクルの推進			③予算科目	款 4 項 2 目 1	
④施策	ごみ減量・リサイクルの推進			④予算事業名	ごみ減量化対策事業費	
⑤施策コード	4.3.3.1	掲載ページ	73	ページ		
(6)実施根拠		(7)総合戦略				
①事務分類(自治・法定受託)	自治事務			①総合戦略	無	
②根拠法令・条例等	小川町廃棄物の処理及び清掃に関する条例			(該当事業名)		
③事業期間	開始	不明	年	月から	終了 未定 年 月まで	
2 事業の目的・内容等						
(1)目的(何のために行うか)		(2)内容(どのような取り組みか)				
廃棄物の排出抑制と適正で安定的な処理を継続するため、地域性などを考慮した独自の取組も模索しながら、ごみの減量化と資源化を図る。		<ul style="list-style-type: none"> ・4R(リフューズ・リデュース・リユース・リサイクル)を積極的に推進し、ごみの減量化を図る。 ・廃食用油や牛乳パック、雑がみの資源化を推進し、可燃ごみの減量化を図る。 ・資源回収実施団体の育成と拡充を進める。 				
(3)対象(誰に対して、何に対して行うか)		(4)成果イメージ(どのような状態になることを目指すか)				
全町民		<ul style="list-style-type: none"> ・物を買う時点から、ごみの排出を意識することで、ごみの減量と資源化に繋がっていく。 ・再資源化できる廃食用油や牛乳パック、雑がみなどを適切に分別することで可燃ごみが減少する。 ・資源回収団体による取組みが広がり資源化率が向上する。 				
対象数	27,290	単位	人			
(5)事業を取り巻く環境(社会環境や町民ニーズ等)						
資源循環型社会の構築を目指し、国・県・各自治体において様々な対策を実施しているが、近年社会的課題となっている、容器包装以外のプラスチック製品の資源化や食品ロスの削減についても推進が必要となっている。						
(6)SDGsへの貢献						
    						
3 事業のコスト(実績・決算・予算)		(単位:千円)				
(1)事業(内容)名称		ごみ減量化対策事業費				
項目	決算・予算年度	R3年度決算	R4年度決算	R5年度決算	実施年度(R6年度)決算	今年度(R7年度)当初予算
(2)事業費	直接事業費合計	1,810	1,733	1,676	1,877	2,360
(3)財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他特定財源	375	371	432	1,877	2,164
	一般財源	1,435	1,362	1,244	0	196
	合計	1,810	1,733	1,676	1,877	2,360
(4)補助金名						
(5)人件費		1	1	1	1	1
投入職員数		1	1	1	1	1
年間人件費		7,628	7,542	7,521	7,772	8,032
(6)総事業費		9,438	9,275	9,197	9,649	10,392
サービス量(人)		28,494	28,046	27,774	27,290	27,290
サービス単価		0.3	0.3	0.3	0.4	0.4
(単位)		千円／町民1人当たり				

4 指標の検証		ごみ減量化対策事業費					
指標名		単位	R5年度決算	実施年度(R6年度)決算	今年度(R7年度)予算積算		
(1)活動指標(実施した事業の量)							
指標名	目標値						
	実績値						
	達成率						
	目標値						
	実績値						
	達成率						
(2)成果指標(実施した結果として得られた成果の量と達成度)							
指標名	ごみ1人1日当たり排出量 (総振目標指標p73) R7年度目標値 705g	目標値 g	705	705	705		
	実績値 g	706	710				
	達成率 %	99.9	99.3				
	燃えるごみ1人1日当たり排出量 (総振目標指標p73) R7年度目標値 524g	目標値 g	524	524	524		
	実績値 g	548	551				
	達成率 %	95.6	95.1				
(3)その他指標に現れない成果							
廃食用油と牛乳パックの拠点回収は、町民にも広く浸透してきている。雑がみの分別についても、徐々に浸透しつつあり効果が期待できる。小中学校や子供会、自治会等で取り組んでいる資源回収は、コロナ禍以降実施団体が減少している。							
5 事業評価							
(1)項目別評価							
評価項目		評価	評価理由	評価した理由を選択してください。			
必要性	事業の必要性	1 1 必要性は高い 2 どちらともいえない 3 必要性が低い	1 1 事業の実施が関係法令等で定められている 2 住民や団体など外部から要望・要請が多い事業である 3 その他()				
妥当性	実施主体の妥当性	1 1 妥当である 2 どちらともいえない 3 妥当性が低い	1 1 事業の主体が関係法令等で定められている 2 民間では事業を行っておらず、行政が主体となるべき事業である 3 その他()				
	手段の妥当性	1 1 妥当である 2 どちらともいえない 3 妥当性が低い	1 1 事業を行うのに民間活力(企業、NPO、ボランティアなど)を活用している 2 他に有効な代替手段が見当たらない 3 その他()				
効率性	コスト効率性 人員の効率性	1 1 効率的である 2 どちらともいえない 3 効率性が低い	2 1 サービス単価は減少している 2 サービス単価を維持している 3 その他()				
公平性	受益者の偏り	1 1 偏りはない 2 どちらともいえない 3 偏りがある	1 1 公平に分配されている 2 おおむね公平に分配されている 3 その他()				
有効性	成果の向上	1 1 成果が上がっている 2 どちらともいえない 3 成果が下がっている	3 1 成果指標は、目標値より実績値が上回っている 2 成果指標は、前年度より向上している 3 その他(1人当たりのごみ排出量は増加しているものの、分別は町民に浸透している。)				
進捗度	事業の進捗	2 1 順調に進んでいる 2 概ね順調である 3 あまり順調に進んでいない	2 1 年度内に予定した事業は完了した 2 年度内に予定した事業の8割以上は完了した 3 その他()				
(2)総合評価(上記結果を踏まえて、今後の課題と対応を記載してください。)							
廃棄物の分別収集は、開始から20年以上が経過し、少しずつ変更を加えながらも町民に定着してきている。町民に対して分別の必要性を広報やHPで発信し、またごみ分別促進アプリの活用や出前講座等も積極的に行い、更なるごみの減量化と資源化を図っていく必要がある。							
6 事業の方向性の判断		1 拡充 2 現状維持 3 縮小・統廃合					
評価主体	評価	評価についての説明					
(1)一次評価 (担当課長)							
(2)二次評価 (政策推進課長)	2 現状維持	資源循環型社会の構築を目指し、分別収集とごみの減量化・資源化を進める。					
(3)最終評価 (町長)							